



私たちは学生FD活動推進プロジェクトです！

学生FDとは、教員、職員が組織的に行っていた授業や教育の改善活動に学生が参加する取り組みのことを指します。生産工学部でも教員と職員に私たち学生が加わり『三位一体』となって、「教育」のみならず「学習」の改善にも取り組み、「学生の三発」と呼んでいる我々の活動によって、多様な「知」を横断的に結び付け、学生の主体的な学びの活性化を目指しています。『学生の三発』とは、学生目線から学修・教育の問題点を「発見」する、教職員と連携して新たな改善策を「発案」する、FD活動の成果を学内外に「発信」するという活動です。

2019年度は、桜泉祭において、学生FDの活動をポスターにより説明したり、学生FDスタッフ一人一人が日常的に行っている学修改善への取り組みについて「学修改善のための工夫自慢」という形でポスターにして紹介したりして、スタッフが生の声をそのまま届ける良い機会となりました。

今後も「学生一人一人が理想とする学生像を実現できる仕組みを作る」という活動目的を実現するために、成果を積み重ねながら活動していきます。進化し続ける学生FD活動推進プロジェクトをよろしくお願いします！

本誌に関する照会その他は下記へお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市京町 1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail : cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp

<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/>

SPRING

No.
114

■学部長メッセージ

■特集記事 学科横断型教育プログラム紹介

■2019年の就職状況と2020年の展望

■就職活動体験記

■学科・系ニュース

■連載／卒業生インタビュー

丸藤シートパイル(株) 執行役員

東京支店長 宮田 幸松氏

■令和元年度表彰学生

■CAMPUS NEWS

■令和2年度行事予定



日本大学生産工学部

2020年3月19日発行



スプリング

SPRING No.114

(日本大学生産工学部だより)

令和2年3月19日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

Contents

- 学部長メッセージ……………2 ～ 3
- 特集記事学科横断型教育プログラム紹介…4 ～ 7
- 2019 年の就職状況と 2020 年の展望…8 ～ 9
- 就職活動体験記……………10 ～ 12
- 学科・系ニュース……………13 ～ 17
- 連載／卒業生インタビュー……………18 ～ 19
丸藤シートパイル（株）執行役員
東京支店長 宮田 幸松 氏
- 令和元年度表彰学生……………20 ～ 21
- CAMPUS NEWS ……………22
- 令和2年度行事予定……………23



表紙：「学生 FD 活動」の様子

卒業生に贈るお祝いメッセージ



学部長 日本大学生産工学部
落合 実

令和元年度学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さま、卒業・修了誠におめでとうございます。ご家族の皆さまのお慶びもひとしおのことと心よりお慶び申し上げます。

◆キャンパスライフ

社会に飛び立とうとする皆さん、学部あるいは大学院で過ごしたキャンパスライフはいかがでしたでしょうか。初めて登校した日の開校式から卒業・修了までの学園生活で様々なことを学んだことと思います。

学業面で皆さんに再認識していただきたいことがあります。それは生産実習を含め、技術者倫理、経営管理や他の管理系科目、すなわち生産工学系科目を学んだことです。生産工学系科目は他学部・他大学には無い生産工学部独自のカリキュラムであり、本学部の教育理念である「経営・管理能力を備えた技術者の育成」を最も端的に示した科目群です。加えて実学を重視した実験や実習・演習などの実技科目を多く履修しました。これらの実技科目では少人数のグループで課題解決に取り組み、学生同士そして教員と学生のコミュニケーション等を通して専門知識と社会人としての基礎力が養われています。

卒業生の皆さんにはこれら特徴あるカリキュラムを通し

て「経営・管理能力を備えた技術者」としての素養が身についていることを意識して、本学を卒業、修了した誇りと自信を持って社会で活躍してください。

◆皆さんが活躍する社会、自然環境との共生

現代社会ではデジタル通信技術の急進によって、多種多様な情報が地球規模で得られ、それらの情報は人々の生活や文化そして経済活動を豊かに変革する起爆剤でもあります。経済活動では「ものづくり」をはじめとした生産とその流通や販売等の産業構造が、国対国の関係からグローバルな関係になっています。

また、我が国では少子高齢化と生産年齢人口の減少が今後さらに加速し、経済活動、特に産業界の構造改革が急務となっています。国は第4次産業革命の実現を目指し、IoT・ビッグデータ・AI・ロボットなどをキーワードとした新たな市場創出を進めています。そして科学技術基本計画では、「超スマート社会」(Society 5.0)の実現を目指すとしています。

一方、四方が海に囲まれた我が国では春夏秋冬の四季が人々の心を豊かにする一方で、台風や地震そして火山などによる自然の猛威と共生しています。昨年秋、台風と豪雨により、千葉県をはじめとする関東・東北地域に甚大な災害が発生したことも記憶に新しいことと思います。毎年、日本各地で大規模な自然災害が発生していますが、世界各地でもこのような風水害に加えて干ばつ、大規模火災などの自然災害が発生しており、地球規模での環境変動が影響しているものと考えられます。

このようなグローバル化、超高齢化、産業界革命といった経済情勢そして大規模な自然災害をもたらす地球環境など、激変する経済や自然環境の中でそれらと共生する社会が皆さんの活躍するフィールドです。そして社会では人々が、快適な生活環境を創造できる技術者が求められています。

本学を卒業する皆さんには、今後益々多様化する社

会において、個々の立場で責任ある対応ができる技術者としての素養が備わっておりますので、実社会でそれらを醸成してください。

◆日本で唯一の「生産工学部」

生産工学部は昭和 27 年（1952）に創設された工学部（現理工学部）工業経営学科を前身として、昭和 41 年、生産工学部に改称して、現在、学部9学科、大学院7専攻、学生数約 6300 名の規模に発展しています。創設以来、経営管理能力を備えた技術者の育成を教育の理念とし、多くの卒業生を輩出して産業界の発展に大きく貢献しています。そして、生産工学部は日本において唯一、「生産」を冠した学部であります。

日本大学は明治 22 年（1889）に創立された日本法律学校（現法学部）を前身とし、明治 36 年に日本大学に改称しています。そして初代司法大臣を務めた山田顕義伯爵を学祖と位置付けています。教育の理念は「自主創造」であり、「自ら学ぶ」、「自ら考える」そして「自ら道をひらく」ことです。昨年（2019）10 月4日には創立 130 周年記念式典・祝賀会が執り行われています。

◆日本大学のスケールメリット；「絆」

卒業、修了後は、日本大学のスケールメリットを大いに活用してください。

日本大学は 131 年の歴史と約 116 万人の校友、そして生産工学部は 68 年の歴史と約 8 万人の校友がいます。日本大学の校友は卒業した皆さんを新しい社会人・校友の仲間として歓迎していますので、今後は多くの校友とのつながり、「絆」をもって、協同・協働で社会に貢献していただきたいと存じます。

日本大学の卒業生・修了生としての誇りと自信を持って世界に羽ばたき活躍されることを心より祈念して「卒業生に贈るメッセージ」といたします。

卒業そして修了おめでとうございます。



平成 30 年 6 月に文部科学省から大学設置基準及び大学院設置基準の一部改正の省令が交付、施行されました。この改正目的の 1 つに複数の工学の専門分野を横断した教育課程の実施に向けた教育体制構築の推進があります。本学部は文部科学省の方針に先立ち、平成 27 年度（2015 年度）から学科横断型プログラムの設置を始め、現在、4 つのプログラムが実施されています。

この学科横断型プログラムは各学科の学びに加え、学生の多様な志向に対応したもので、異なった学科の学生が一緒になり、アクティブ・ラーニングを取り入れて行

われています。学科の壁がないプログラムなので、自分の学科以外の学生と一緒に授業を受けることにより、多様な考え方があることに気付いたり、新しい視点で問題解決に取り組むことができます。

この 4 つの学科横断型プログラムは選抜制ですが本学部の全学科の学生が参加できます。プログラムは主に本学部の教員が担当しますが、他学部の教員や実社会で活躍されている方々にも担当して頂いております。

今回の特集では、この 4 つの学科横断型教育プログラムの内容について紹介します。

Global Business Engineer Program

グローバル・ビジネスエンジニア人材育成プログラム

Glo-BE

グロービィ

2015 年度に最初の学科横断型教育プログラム「グローバル・ビジネスエンジニア人材育成プログラム（Glo-BE）」の運用を始めました。

Glo-BE は 2 年間のプログラムで 1 年次は日本のものづくりが世界でどのような問題に直面しているか、どんな人材が求められているかをグローバル企業の事例を基にグループ学習を通じて学びます。具体的には海外勤務者の体験談の聴講、グローバル企業への訪問及び訪問後の報告会を行っています。また、英会話授業を少人数で行い、実践的英会話を身につけるとともに、TOEIC 対策教材を e-ラーニングで学び、毎日の学習習慣を身につけます。

2 年次では論理的交渉力や経営の基本や異文化マネジメントを理解します。また、英会話力もより高めるために英語によるディベートを通じて論理的交渉力を身につける授業を行っています。その他、1 年次（および 2 年次）の春休みには海外企業への訪問を組み込んだ研修を提供しています。

受講生にはグローバル社会で必要なことを認識し、工学的発想による協同的課題解決能力を身に付け、さらには、抵抗感なく英語を使ってグローバルにコミュニケーションできることを期待します。

Entrepreneurial Engineer Program

事業継承者・企業家育成プログラム

Entre-to-Be

アントレトゥービィ

2016 年度には理工系学部初の本格的企業家育成プログラム「事業継承者・企業家育成プログラム（Entre-to-Be）」をスタートさせました。Entre-to-Be は 2 年間のプログラムで事業継承予定の学生のみならず、将来、企業経営を担いたいという学生を対象にしています。

1 年次はマネジメントの基本を学ぶとともに専門家によるワークショップなどの実践教育でマネジメントの本質を理解します。2 年次はさらに実践的な課題解決能力を醸成するためにチーム活動をベースに新規事業のアイデアを創出し、実際に「事業計画書」を作成します。2 年間のプログラムで得た知識やスキルを活かし、3 年次必修科目の生産実習（インターンシップ）等で実践力を磨くこともできます。

「かすかべビジネスプランコンテスト」に当プログラムの履修生が 2017 年、2018 年の 2 年連続参加し、いずれも学生部門最高賞であるビジネスアイデア部門グッドアイデア賞を受賞しました。



Robotics for Business and Engineering

ロボットエンジニア育成実践プログラム

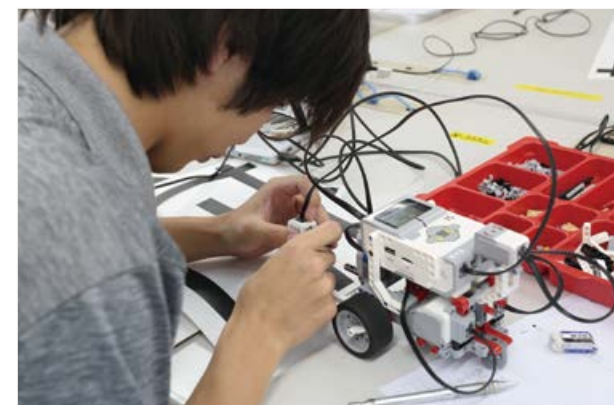
Robo-BE

ロボビィ

2017 年度にはロボットエンジニアに対する社会的ニーズに応えるべく、「ロボットエンジニア育成実践プログラム（Robo-BE）」を開講しました。

Robo-BE はこれからの社会で活躍が期待される「ロボット技術」とその技術を社会に還元する「実装技術」を兼ね備えた人材を育成することを目的としています。

1 年次ではロボットのしくみと動かす上で必要なセンサーや制御などについて体得します。2 年次ではロボット創造に必要な理論やコンピュータの基礎を習得し、3 年次ではマーケティングの基礎を学んだ上で現実のニーズに即したロボット開発を行います。4 年次以降は研究センターでの卒業研究や修士研究等を通じて、社会で活躍する、確かな仕事をこなせるロボット技術者としての総合力を修得します。



Science/Technology/Engineering/Art/Mathematic

好奇心からイノベーションへつなげるモノづくり人材育成プログラム

STEAM^{TO}BE

スティームトゥービィ

2019 年度には「好奇心からイノベーションへつなげるモノづくり人材育成プログラム（STEAM-TO-BE）」を展開しました。

STEAM-TO-BE は科学・技術・工学・数学の総合的教育である STEM (Science-Technology-Engineering-Mathematics) に芸術的要素 (Art) を取り入れた STEAM 教育に基づく講義やグループ学習を中心とする演習を通して、観察力、想像力および表現力を身に付け、問題発見・解決スキルを高めるとともに、モノづくりの技術を結びつけて商品などを提案する力を育むことを目的としています。

1 年次には観察力、想像力、表現力を磨くことを目的とし、これらを実現するために論理的思考法を使ったアイデア出しと思考、電子工作キットの利用やレーザーカッター、3D プリンターなどを使った試作方法を学びます。2 年次では商品の提案力とその魅力をアピールする伝達力の醸成を目的にしています。3 年次では企業等と共同で開催される技能やアイデアを競い合う開発イベント（ハッカソン）に参加し、2 年間の学習成果を活かしながら、アイデアの創出、プレゼンテーションなどを実践する予定です。



Glo-BE グロービィ

Glo-BE プログラム受講学生インタビュー



マネジメント工学科 経営システムコース 2 年
船山 翔（つばさ）

Glo-BE の授業は、実践的なグループワークとパワーポイントを使ったプレゼンテーションの機会が多く、何度も経験を積むことができました。一番印象に残っているグループワークは、1 年生のときに企業を訪問し、後日発表したときの事です。企業への質問内容を考えたり、まとめたりするのに苦労しました。実践を重ねることで、課題解決能力、グループでの立ち回り方、英会話能力が身に付いたと実感しています。そして、他学科の人とも交友関係が広がったのは、Glo-BE のグループワークのおかげだと思います。



コミュニケーション英語応用Ⅱ（授業）での集合写真

国が違くと、物事の捉え方や考え方で違う

1 年の春、海外研修で 2 週間シアトルへ行きました。語学学校にはガラパゴス諸島やサウジアラビアからの研修生もいて、英語で英語を学びました。日本語で英語を学ぶよりもイメージ的にずっと入ってきて、わかり易かったです。海外研修を通して学んだことは、自分の考えや価値観が違う人たちとの接し方です。シアトルに行く前は、第一印象で勝手に思い込んで判断してしまうことがありました。いきなり拒否や否定をせず、相手の価値観や意見を聞き入れた上で自分の意見を伝えることの大切さに、日本を飛び出して初めて気づくことができました。

今は公認会計士を目指して、勉強を進めています。また、経営コンサルタントとしても活動し、国内外を問わず社会に貢献したいと考えています。Glo-BE で身に付けた英語でのコミュニケーション能力と、何度も実践したプレゼンテーションの経験を生かし、世の中の役に立てる人になりたいと思います。

大変だけど、やらないよりやった方がいい。

英語でのコミュニケーション能力と、ビジネスマナーを身に付ける

中学 3 年生のときに、英語だけでグループワークを行う Glo-BE のようなプログラムに参加しました。そこで初めて実践的な英語に触れましたが、思うように自分の気持ちを伝えることができなかったのが心残りでした。そのときの気持ちをバネに、英語力とビジネスマナーを身に付けたいと思い、Glo-BE の受講を決めました。



お世話になったホームファミリーの方と

Glo-BE グロービィ

Glo-BE プログラム体験卒業生

日本航空株式会社
運航本部乗員サポート部
スケジュール運用グループ (TYONNZ/S)
郡司 豪

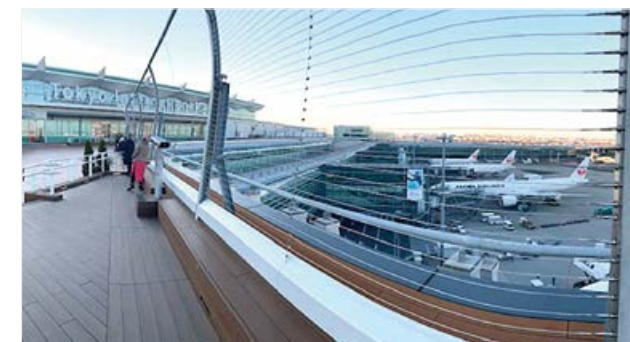


グロービィプログラムを受講した際の体験談

私が印象に残っている体験談は 2 つあります。

1 つ目はベルリッツのネイティブ講師からの英会話レッスンです。授業は学科で受けているものと違いグロービィプログラムに参加している学生のみで行われる少人数レッスンです。授業は英語のみで行われるため、最初はネイティブ講師の言っていることが分からないことが多く、また自分の言いたい事を英語で伝える難しさを感じました。しかし少人数レッスンの授業のおかげで発言する機会も多くあり実践的な英語を学ぶことができました。

2 つ目はグロービィプログラムを通じて他学科の学生と交流が出来たことです。グロービィプログラムは全学科の学生



現在、私は羽田空港の乗員サポート部という部署で主に運航乗務員のスケジュール、show up 管理などを行なっています。日々の業務では悪天候により便が欠航、乗務員が病気になり乗務ができなくなるなど不測の事態が毎日のように起こります。そこで 1 番大事なのがコミュニケーションだと私は考えています。

1 便を飛ばすためには地上で多くの部署が連携してようやく成り立ちます。不測の事態が起こっても各部署が密にコミュニケーション取り、状況を把握して適切な処理を行う事で何事もなかったように日々飛行機は運航しています。私はグロービィプログラムで培ってきたコミュニケーション、特に報連相（報告、連絡、相談）を意識して日々業務に取り組んでいます。

2 年間のグロービィプログラムは社会人に必要な能力の基盤を形成してくれました。この経験を活かし、今後は運航乗務員になるにあたって管制官、整備士、客室乗務員など多くの方と密にコミュニケーションを取り、日々の運航の支えとなるように努めていきます。

1 2019年の内定状況

●2019年度の採用に関するスケジュールは、2018年度と同様に3月1日に広報活動開始、6月1日に採用選考活動開始でした。就職活動のスケジュールはやや落ち着きを見せ始めたと言えます。

採用ルールに関しては、日本経済団体連合会は現在大学3年生である2021年3月卒業の新卒者を対象とする就職・採用活動のルールを策定せず、政府主導で新たな方式作りを行うというものでしたが、スケジュールに関しては変更せず、政府は2021年春入社については現行ルールを維持する方針とのことです。

文部科学省と厚生労働省が2019年11月に発表した全国の大卒の就職内定率は76.8%（2019年10月1日調査時点）でした。昨年度の同月（2018年10月1日調査時点）の全国の大卒の内定率よりも0.2ポイントの下降となっているものの、依然として学生側にとっては売り手市場が続いており、就職を目指す学生にとっては有利な状況で就職活

動が展開できたのではないかと思います。生産工学部の2019年度の月別内定率は図1に示すように2019年12月1日時点で93.0%です。昨年の12月1日での生産工学部の内定率が93.5%なので内定率は若干減少に留まっています。一方6月1日の学部平均の内定率は59.1%で昨年同日より3.9ポイント上昇、7月1日では69.9%で昨年同日より0.4ポイント上昇しており活動の早期化が窺えます。

2 2019年の就職活動の特徴

●近年の就職活動の特徴の一つに、1dayインターンシップを含む短期間のインターンシップへの参加の増加が挙げられます。「キャリアス就活新卒採用マーケットの分析 2020年卒就職・採用戦線総括」では、約60%の学生はインターンシップ参加機会が十分にあったと回答し、業界研究・企業研究に十分な時間がとれ、学業と無理なく両立できたとしています。一方で余裕を持って就

職活動ができるということは、活動の長期化を示唆しているとともに企業サイドからは活動の早期化とエントリー数の減少が報告されています。生産工学部では3年生の8・9月を中心に2週間から1か月の期間を費やして生産実習（必修）を40年以上にわたり実施しています。この生産実習はまさに就業体験であり、本来のインターンシップです。本学の学生は全員、生産実習を受講して希望職種の就業体験ができるため、時流に乗り遅れることなく、確実な就職準備活動ができていると見受けられます。

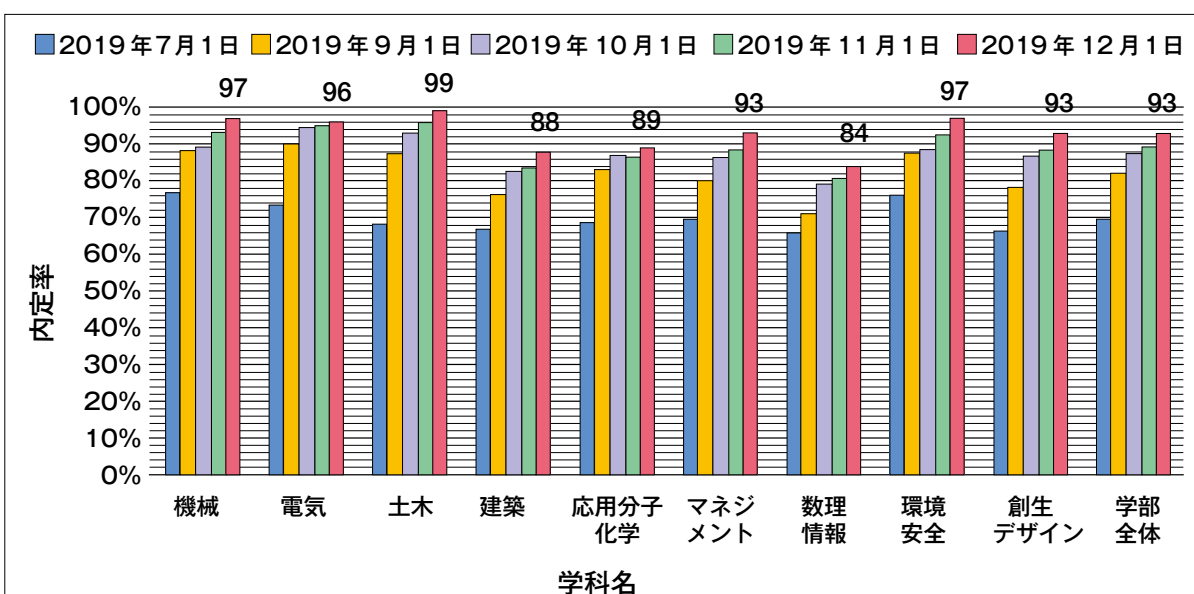
3 2020年の展望

●2020年度（2021年3月卒）採用活動のスケジュールは2019年度と同様に実施されます。また求人状況も、各企業の採用担当者の話から考えると2019年度と同様に全体としては好調であると考えられます。2020年度東京オリンピック・パラリンピック閉幕以降の景気の状態を予測することは困難ですが、これまでと全く同じであるとは考えにくい状態です。しかし技術者が少ない状況であることには変わりはありません。よって2020年も売り手市場での就職活動は進んでいくと考えられます。一方で、志望業界は1位が「情報・インターネットサービス」で、次いで「情報処理・ソフトウェア・ゲーム」、「水産・食品」が続いており、前年同期調査とは全く異なる業種に入れ替わっています。また理系男子は「電子・電機」「情報・インターネットサービス」「情報処理・ソフトウェア・ゲーム」、理系女子は「水産・食品」「医薬品・医療関連・化粧品」「素材・化学」の順に志望が多い状況

とのことです。『「キャリアス就活 2021 学生モニター調査結果」（2019年12月）』また、2020年度以降に就職活動を迎える人は、社会情勢をしっかりと見極めて対応してもらいたいと思います。今後も1dayインターンシップの増加が予想されます。仕事や実務体験を主体としたものではなく、その実態は企業説明会や現場見学会、あるいはワークショップであるものがほとんどのように、会社説明会やワークショップなどでは、既に個人面接、グループディスカッションとして企業の評価が始まっているものと考えた方が良いでしょう。短期のインターンシップは企業のプレ採用説明会等と考えて参加した方が良いでしょう。そして、企業説明会である以上、当然採用活動の一環なので3年生は就職活動として、あるいは採用選考として緊張感を持って積極的な姿勢で参加していただきたいと思います。

生産工学部では就職支援プログラムとして、学科就職ガイダンスを皮切りに各種ガイダンス、就職対策講座、女子学生向け就職対策講座などを行っています。そして3月には約500社の企業が参加する就職セミナーが開催されます。また教員採用試験対策ガイダンスや公務員試験ガイダンスならびに公務員対策講座も行っています。

最後に、これらの支援プログラムを上手に利用して、また早い段階から自分をよく知り、相手をよく知り、アンテナを高くして情報収集を積極的に行い、就職活動に臨んでいただきたいと思います。



就職活動体験記

機械工学科



全て自分で考えること

4年 加藤 大貴
(全日本空輸株式会社 内定)

皆さんはこれからの就職活動をどのように進めていこうか考えていますか？〇月に△△△して、□月には×××してなどと考えていませんか？就活サイトや本には、「この時期にこんなことをした方がいい」などと書いてあると思いますが、それは一般的な一例です。就職活動も入試などと同じで、試験方法が会社ごとに違ったり、試験方式が違ったりなどするため、予定通りにいかないこともあり、すべての就活生に一般的な一例が合うわけがありません。そこで大切な事は「自分で今の自分に

必要なことは何か、次は何をすればいいのか考え行動し、いろいろ試してみることです。」CAREER GUIDE BOOKなどに先輩方の体験談として「自分を目立たせる」や「会社を絞る」などがありましたが、それはその先輩のやり方がたまたまその会社に合っていて、たまたまその先輩に合ったやり方であっただけです。これらは先輩方に合った体験談であり、皆さんに合うとは限りません。ですから就職活動をする皆さんには、書類選考が始まる前に、一般的な一例、先輩方の体験談を参考に自分に必要なこと、不要な事を添削し、選考をしながらも添削し就職活動を進めてほしいと思います。皆さんが入社する会社は、数年間通う学校とは違い、一生生活する場になるかもしれません。一生生活する場所を決めるのは自分です。なので自己分析をし、自分に合った就職活動をするのが大切だと思います。
* 私が書いたことも私に合ったやり方であっただけなので参考程度にしてください。

電気電子工学科



あなたの軸は何ですか？

4年 山口 遼大
(セイコーエプソン株式会社 内定)

「あなたの軸は何ですか？」これは私が就活時に自分に問い続けていた言葉です。「軸」というのは、これは譲れない、外せない、大切な価値観などです。働く場所が大切な人もいますし、お金が重要だという人、職種や働き方が大事な人もいます。私は軸が定まると行動にブレがなくなり、芯ができると考えています。この「自分の軸」を強く持つことが私の強みであったと思います。

私の軸は「自己成長」の信念の下「尊敬できる・学びたいと思える先輩方の下、そして自分を高められる場所で働く」です。私は技術展等に

足を運んだり、OBや知り合いの方に連絡を取ったりし、様々な大人の方にお話をお伺いして自分の軸を見つけました。そしてこの軸の下、私は企業を決め行動しました。具体的には、まず働くビジョンを明確にしました。自分は何が得意でどういう人か、そしてそれをどう活かすことで活躍できるのか、というところまで掘り下げました。他にも企業への理解を深めるために製品について調べたり、経営理念や社歴も調べました。特に経営理念は企業の軸です。入社したらその理念の下、行動していく事になります。それに共感できるかは非常に大切です。そして面接では、自分の言葉で誠実に想いを伝えました(面接は自分の目で相手を確認できる貴重な場でもあります。言動や雰囲気に着目すると企業ごとに異なり興味深いです)。少しでも参考になればと思います。

現在、国内の法人企業は170万社以上、世界ではさらに多くの企業があります。しかし全ての企業を調べるのは無理があります。そのため、どうしても企業との出会いはご縁な面もあります。その縁を紡ぐためにも、一度自分を見つめ直し「自分の軸」を見つけ、後悔のないように行動してください。

土木工学科



時間をかけてでも自分をみつめる

4年 清水 雄登
(応用地質株式会社 内定)

私の就職活動における強みは、日ごろの内省する習慣です。なぜなら、この習慣があったからこそ自己分析という正解も終わりもない自分との戦いと深く向き合うことができたからです。

自己分析は、志望する業界・企業の発見からエントリーシートの作成、面接対策まで一貫して関わる就職活動の礎だと思います。そのため、私は自己分析に最も力を入れました。とはいえ特別なことをしたわけではありません。とにかく時間をかけました。自己分析の最大の難点は、正解がない中で自分なりのベストアンサーを見つけることだと思います。それゆえ、円滑に進められず、就活生が

頭を悩ませるポイントにもなると思います。

私は日常生活で、自分の行動や言動を振り返り不完全な部分や不足していることをかき出し、自己啓発するよう心掛けています。この自分をみつめる習慣が自己分析を徹底的に行うこと、そして中途半端に終わらせないことに繋がる強みになったと思います。

自己分析は、正解がないからこそどこまで深掘するかは人それぞれとも思います。自分のことは自分が一番よく分かっているのだから自己分析に時間を割く必要はないという人もいるでしょう。

しかし、結論を急ぎすぎると表面的な回答になってしまうはず。逆に、速回りでも自己分析を深めて言語化し何度も推敲した文章は、唯一無二の自分らしさという武器になったと自信を持っています。

それゆえ、私は自己分析に時間をかけて取り組むことが大切だと考えます。

これから就職活動を経験する皆さんも、就職活動をただ志望先の企業から内定をもらうために行うのではなく、社会に出る前に自身を深く見つめ直す機会としても活用してみたいはいかがでしょうか。

就職活動体験記

建築工学科



周りの人を大切に

4年 岡田 一輝
(株式会社大林組 内定)

私が就職活動を通して、常々意識していた事は、「周りの人を大事にする事」です。私は3年生の4月頃から会社を調べ始め、3年の夏頃からインターンを受け始めました。周りの人よりも少し早く就職活動を始める事が出来たのは、研究室の優秀で優しい先輩方が、情報を与えてくれたからです。就職活動の始め方からインターンの情報、ESの添削や面接のポイントなどあらゆる事を先輩方には教えていただきました。就職活動を一通り経験している身近な人から情報を得る事が重要だと考えています。

また、インターンや説明会で出会った企業の方とのコミュニケーションも大事にしていました。実際に働いている方々の話はとても貴重です。就活生の立場として遠慮なく質問する事で、その企業の雰囲気、様々な立場の方から見た仕事のやりがいなど、いろいろな生の情報を得る事が出来ます。情報を得るだけでなく、大人の方とのコミュニケーション力も身につけ、面接の際に緊張せず、自分の思いをしっかりと伝えられるようになりました。

就職活動において、うまくいかない経験は、誰でも1度はあると思います。その時頼りになるのは一緒に就職活動を頑張る友人の存在です。就職活動は個人でやるものではないと私は考えています。受ける企業は異なっても、お互いに励まし合う事で、落ちたとしても切り替える事ができ、また、新たな企業の情報交換もする事ができます。実際、私自身も何度も友人に助けられました。

私は就職活動を通して、色々な事を学び、人間として成長する事が出来ました。就職活動は苦難や困難が沢山あると思いますが、周りの人と助け合いながら、自分を成長させていって下さい。

応用分子化学科



先んずれば就活を制す

4年 有田 行宏
(佐藤製薬株式会社 内定)

私は、早めの行動を心掛け、3年生の10月頃に就活を開始し、様々な1DAYインターンシップに参加しました。これは、早めの行動は心の余裕を生み、突然の問題が発生しても対応できること、さらに企業の風土や選考などに関する情報を多く得たいと考えていたからです。そこで、自己分析を行う機会があり、私は自分自身の強みや弱みなどを理解できていなかった自分に驚き、自己分析の重要性を痛感しました。

選考では、企業に対して、「私はここで働きたい」という強い意思をアピールしなければなりません。そのためには、①企業の求める人材と

自分自身が合致しているか、②いかに自分を売り込むか、が大切になると考え、自分に向き合う時間や企業が求める人材を調べるなど、自己分析と企業研究に多くの時間を充てるようにしました。

私は、応用分子化学に在籍していることから、業界を特に興味があった試薬メーカーや医薬品メーカーに絞りました。これは、様々な業界や職種に選択肢を持つと、自分のアピールしなければならない点に一貫性がなくなり、志望理由が弱いものになると考えたからです。希望業界を絞ることで、面接では統一性を持った志望理由を自分の言葉で相手にしっかりと伝えることができ、第一希望の企業から内定を頂くことができました。

就活への不安は誰もが感じる事だと思います。不安は未知から来るため、早い段階から自己分析や企業研究などの準備を始めることが、不安の払拭に繋がります。周りの人がまだ就活準備をしていないからといって安心するのではなく、あらかじめ準備しておき、心の余裕を持ちながら自分にあった企業の内定を勝ち取ってほしいと思います。

マネジメント工学科



マネジメント工学という強み

4年 浦田 奈愛
(三菱自動車工業株式会社内定)

私は就職活動に向けて3年生の7月から興味のある業界や業種を絞るためにインターンシップへ参加したり、新卒の逆求人サイトへ登録をしてESを書く練習をしていました。その中で私は、お客様と直接関わる仕事よりも最新の技術に触れたり、技術を生み出したりする場で働きたいと考え、メーカーの技術職を志望することにしました。

その中でも、あらゆる技術を集約して完成させることができ、自分の関わった製品が街で見ることができることが一番魅力的に感じた完成車メーカーを志望しました。

技術職を志望する場合、周りは機械工学科や電気電子科等の大学で技術をすでに学んでいる学生が多く、機械に関わる技術をほとんど身に付けていない自分が不利になることも十分に考えられました。しかし、私はマネジメント工学科で工学的アプローチを基本としたマネジメント技術、企業の経営活動で最適化を図る学問を学んだことは他学科の学生と差別化でき、強みとして活きたと考え、「技術を活かす場面を考えたり、技術者をまとめたりする開発管理の仕事をしたい」と面接で話しました。

第一志望の三菱自動車には溢れんばかりの熱い思いがあったので、面接では「素直に笑顔で会話ををする」ことを意識して臨みました。特に私はコミュニケーションに自信があったので自分をより深く知ってもらうために会話のキャッチボールを積極的に続けるようにしました。説明が必要な場面では相手にわかりやすく伝えるために身振り手振りを交え、アドバイスや貴重な経験談等を聞かせていただけたときにはよく質問をしました。そのおかげかはわかりませんが、後日人事の方から面接の評価がとてもよかったとお褒めの言葉をいただくことができました。

数理情報工学科



やってみる勇氣

4年 八木 友也

(富士通株式会社 内定)

私が、大学生活で意識してきたことは「やってみる勇氣」というものです。これは、私が学部一年生の時に会った、あるゲーム会社に勤めている方に勧められた考え方です。なぜ「やってみる勇氣」が必要であるのかというと、もしあなたが仕事を頼む時、必ず断る人と必ず引き受ける人がいたらどちらに次の仕事を頼むか？ということ。これを意識し続け、学部時代に多くの頼まれことを何でも引き受けました。おそらく周りから見たら便利屋みたいになっていたと思います。ですがその結果、学生団体への参加、サークル長、ゼミ長、ピアサポーター、

国際学会での研究発表など、多くのことを経験させていただきました。これらの経験は就職活動中に大いに活かされました。

インターンシップやグループワーク、面接には、度胸が必要です。私はこの度胸をつけるには、ある程度の根拠がなければいけないと考えています。そして私にとっての根拠は、学部時代の多くの経験でした。様々なことをやってきたからこそ、インターンシップに参加する意欲が生まれました。また、友人の中でどうせ学部生では、学科推薦を大手企業に出しても通らないという風潮がありましたが、私は必ず受かるという意気込みで書類の提出、面接を行えたと考えています。

皆さんの大学生活が就職活動のためだけになってはいけませんが、多くのことに対して少しでも「やってみる勇氣」を持つてみるのは良いことだと思います。初めてのことにしても取り敢えずやってみる。全力で物事に取り組んだ人に対して責める人はいないと思います。そして努力して得た経験は、必ずどこかで皆さんの助けになると思います。

環境安全工学科



早めに動き出す！

4年 丸山 晃人

(国土交通省関東地方整備局 内定)

就職活動で最も大切にしていたことは「早めに動き出す」ことです。

環境安全工学科には3年次1Qの生産工学特別講義で、複数の業種について知る機会があります。私はその講義で、国土交通省の業務内容に興味を持ったことから、夏の生産実習は関東地方整備局で行うこととしました。生産実習では関東地方整備局の業務内容を詳しく理解でき、また職場の雰囲気など、肌身を持って感じることができました。この生産実習がきっかけで、私は公務員を目指すことにしました。

公務員になるためには、筆記試験と複数の面接試験に合格する必要

があります。

筆記試験対策は、大学で開かれる公務員試験対策の集中講義に参加したり、大学の図書館にある対策本を使い勉強したりしました。時間の遣り繰りで勉強時間を確保することにより、わからなかった問題をノートにまとめ、定着するように心がけました。試験の直前期は大学の図書館にこもり、ひたすら時間をはかり過去問集を解いていました。

面接試験対策は、早めに就職活動を開始し数多くのインターンを体験することにより、その業種や企業の雰囲気や仕事内容、企業ごとの違いについて理解するよう心掛けました。また、多くの企業を見ていくうちに自己分析ができ、強みを確認できました。強みを活かした志望動機を書くことで、志望動機が明確化されたエントリーシートづくりができ、また様々な質問を想定した面接練習をすることによって、合格をつかみ取ることができたと考えています。

就職活動の第一歩は授業の中にあると私は感じました。だからこそ、早めに動き出す必要があります。就職活動を控えた皆さんも早め早めの行動をして、自分に合った良い企業を見つけられるように頑張ってください。

創生デザイン学科



様々なチャンスに精一杯取り組む事の大切さ

4年 松尾 賢弥

(有限会社ライトデザイン 内定)

私は大学2年生の時に、照明に興味を持ち、当時いらっしゃった教員を中心としたサークル活動に参加しました。

北海道の雪のお祭りの灯デザインや、照明学会の国際会議でプレゼンなどに取り組む中で、照明に対する興味が強くなりました。3年次のゼミ配属も照明を専門とするゼミを選択し、その活動で参加したシンポジウムで一人の照明デザイナーの方に会いました。講演内容に感銘を受けた私は、終了後に駆け寄って声をかけていました。頭の整理も良く出来ていない状況でしたが、もっと話が聞きたい、知りたいという思いが先

行していました。その照明デザイナーの方は、私の雰囲気をどう感じたのかわかりませんが、「インターンに来てみますか？」と声をかけてくれました。これが、内定先の代表との初めての出会いです。

インターンシップへ通っていた時間は、夢のような時間でした。知れば知るほど、プロの照明デザインの世界は刺激的で魅力の詰まった仕事だと感じ、インターン最終日に「もっと学ばせてほしい」と伝え、インターンシップが終了した後も通うことになりました。実は、高校時代は演劇に熱中していて、舞台上でスポットライトに照らされる側に喜びを感じ、興味を持っていたのですが、今は自分自身が照らされるのではなく、「誰かの一時を照らす側」としてその人の日常を彩る場所を提供したい、それが自身の喜びにも通じるのではないかと気持ちの変化に気がつきました。その思いを内定先の代表に伝え、幸いにもメンバーへ加えてもらえることになりました。

これが、照明デザイン事務所への就職を決めるまでの経緯です。トントン拍子に進みラッキーだと言う人もいます。ただ、心がけてきたことは様々なチャンスに対して、上手くいかないことがあっても精一杯取り組んだことです。

機械工学科

研究成果を発表した多くの学生が高く評価されています

国内学会や生産工学部の学術講演会において研究成果発表が高く評価された学生たちの受賞記録の一部を表ににご紹介します。研究で培った能力に磨きをかけて、今後の技術者としての活躍が期待されます。教員では、鉄道工学リサーチ・センターの綱島 均教授、富井規雄教授（研究所）が、日本鉄道サイバネティックス協議会から感謝状を授与され、富井教授は8th International Conference on Railway Operations Modelling and Analysisにおいて、Best Professional Paperの第2位に選出されました。自動車工学リサーチ・センターの高橋進教授は、天田財団主催：第17回助成研究成果発表会にて優秀論文賞を授与されるほか、日本塑性加工学会賞・技術開発賞（中小企業）を授与されています。また、松本幸太郎助教らが、日本機械学会「ロボティクス・メカトロニクス講演会2018」においてROBOMECH表彰（産業・実用分野）を受賞されています。その他、機械工学科のホームページ（<http://www.me.cit.nihon-u.ac.jp/>）では、機械工学科の学生が所属するサークル活動などの様々なニュースが紹介されていますので、そちらもご覧ください。

卒業後、修了後の益々のご活躍を機械工学科教職員一同、お祈り申し上げます。

年度	学生氏名	学年	受賞名
平成30年度	富田 晋	M1	日本設計工学会 2018 年度春季大会研究発表講演会学生優秀発表賞
	川口 奨	M1	第63回 FRP 総合講演会・展示会 (FRP CON-EX 2018) 最優秀ポスター賞
	富田 晋	M1	第63回 FRP 総合講演会・展示会 (FRP CON-EX 2018) 最優秀ポスター賞
	川口 奨	M1	第51回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	清水爽太	M2	第51回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	金 豊	M2	第51回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	萩野谷健吾	M1	第51回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	井口賢太郎	M2	第51回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	梁宮聖人	M1	第51回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	南條元貴	M2	第51回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	野崎利博	M2	第51回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	松田明子	M1	第51回学術講演会優秀学生発表賞（ポスター発表）
	辻 健太	M1	第51回学術講演会優秀学生発表賞（ポスター発表）
令和元年度	阿部翔一	M1	第51回学術講演会優秀学生発表賞（ポスター発表）
	有働 開	M1	第51回学術講演会優秀学生発表賞（ポスター発表）
	林田悠一	M2	日本鉄道サイバネティックス協議会学生優秀論文奨励賞
	弓野智史	M2	日本鑄造工学会第173回全国講演大会学生優秀講演賞
	鷹見 凌	M1	第52回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	石井翔太	M2	第52回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	丸山拓真	M2	第52回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	有働 開	M2	第52回学術講演会優秀学生発表賞（口頭発表）
	有川純一	M1	第52回学術講演会優秀学生発表賞（ポスター発表）

※学年は受賞時

電気電子工学科

電気電子工学専攻1年 皆川裕貴君がプラズマ・核融合学会年会にて若手学会発表賞を受賞しました

2019年11月29日～12月2日に中部大学にて開催されたプラズマ・核融合学会年会において、本学部電気電子工学専攻修士課程1年の皆川裕貴君（荒巻研究室）が若手学会発表賞（旧：若手優秀発表賞）を受賞しました。他大学の博士課程の学生を抑えての受賞おめでとうございます。

（受賞者一覧：<http://www.jspf.or.jp/award/wakate.html>）

発表タイトルは「光渦吸収分光における回折の影響とスペクトル形状の評価」です。この研究は光渦と呼ばれる捻じれた光波を用いた全く新しいプラズマのレーザー分光法です。発表ではこの測定法の精度向上を目指し、回折によるビーム形状の変化とスペクトル形状への影響について実験とシミュレーションによって評価しました。



受賞写真（皆川裕貴君）

電気電子工学専攻1年 水野誓也君が第52回学術講演会にて優秀学生発表賞を受賞しました

令和元年12月7日開催の第52回日本大学生産工学部学術講演会にて電気電子工学専攻修士課程1年の水野誓也君（関研究室）が優秀学生発表賞を受賞しました。

発表内容は金属枠付きマイクロストリップアンテナで平面アンテナの高利得化手法に関するものです。受賞おめでとうございます。



受賞写真（水野誓也君）

生産実習が伝える生産工学部のチカラ

土木工学科では、3年次夏季休暇中に全員が生産実習により140時間以上の仕事を体験しています。

1年次のキャリアデザイン、2年次のキャリアデザイン演習において経験した自己分析、企業研究を基に、生産実習では生産実習NOTESを用いて、30時間以上の事前・事後学習を通じ7つの要素（自己分析、企業研究、目標設定、学習スタイルの認識、事前準備、実習日誌、振り返り）を自ら実施することにより、将来を展望しています。

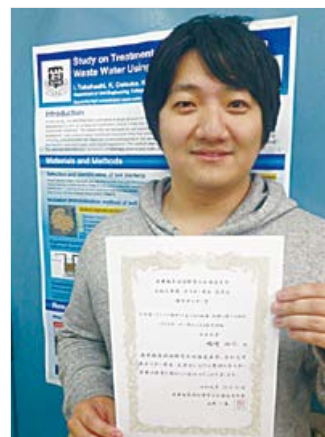
専門知識・技能の向上のみならず、社会人として必要な力（社会人基礎力）の向上を実感する学生が多く、その成果はポスター発表により低学年の学生へも周知され、学部創設から続く生産工学部土木工学科のチカラが後輩へと引き継がれています。



ポスター発表の様子

大学院生が優秀賞を受賞！

土木工学専攻の修士2年の岡崎祐さんが廃棄物資源循環学会において、「下水道システムを活用した生ごみの収集・処理に関する研究」に関し優秀ポスター賞を受賞しました。また、博士1年の木内彬喬さんが土木学会全国大会において、「輪荷重走行振動疲労実験におけるRC床版の衝撃係数に関する研究」に関し優秀講演賞を受賞しました。大学院では、大学で培った知識・技能及び能力を活かしながら、生産工学に繋がる、より高度な研究が行われています。大学院生は教員や外部機関と協力し、実践的な多くの研究成果を社会に向けて発信しており、高く評価されています。



付属高校出身学生を対象とした交流イベントを開催 (R1.11.27)

応用分子化学科に在籍する付属高等学校出身の1年生を対象とした交流イベントを開催！学生24名（1年生12名、2年生7名、3年生5名）と学科教員9名が参加し、学生と教員の混成チームでボーリングを楽しみました。

応用分子化学科スポーツ大会を開催 (R1.10.19)

勉強や研究活動で鈍りがちな体を動かす機会として学科スポーツ大会を開催！当日はあいにくの空模様でしたが無事にスポーツ大会を行い、親睦会で学生と教員、学生間での交流を深めました。

地震発生を想定した避難訓練を実施 (R1.9.10)

研究室で地震に被災したことを想定した避難訓練を実施！当日は汗ばむ暑さでしたが、無事に避難訓練を終えることができました。



津野教授らの研究グループの論文が“Chirality”のCover Imageに選定

津野教授とBrunner教授の論文がChiralityのCover imageに採用されました。

Henri Brunner, Takashi Tsuno, Chirality in amino acids beyond the C α configuration, Chirality, 31(9), 635-640(2019)

学会発表での受賞者（敬称略、受賞時の学年）

【第33回日本キチン・キトサン学会大会：令和元年8月】

《優秀ポスター賞》川神結菜 (M2)

【APCChE2019：2019年9月】

《Encouragement Award of Separation Process Division》鷹尾千尋 (M2)

【第6回海水・生活・化学連携シンポジウム：令和元年11月】

《最優秀賞》木村太一 (M2)

《優秀賞》秋谷昂明 (B4)

《詳細は学科HP等をご確認ください》

避難訓練の様子

学生の受賞報告

コンクール名 歴史的空間再編コンペティション2019

審査員：塚本由晴（審査委員長）、平田晃久、松田達、中島直人、宮下智裕、樋渡彩

審査結果：5位、学生投票部門1位

コンクールの規模：全国

応募資格：大学院（大学院卒業1年目まで応募可能）、大学、短期大学、専門学校、高等専門学校

応募総数：214作品

審査日：2019年11月

共同提案者：加藤夏乃（代表：学部4年、篠崎研）、河本耀杜、福井優奈、水野有人、佐藤裕士郎、外山純輝



重複応募が可能な『歴史的空間再編コンペティション』は、過去の卒業制作や、他の設計競技の優秀作品やその改良案がこぞって応募するため、全国でも屈指の注目度を誇ります。その中で本作品は、全国5位および学生投票1位という成績を収めることができました。下に記すのは、コンペ審査委員である建築家平田晃久氏から頂いた講評の一部です。深い理解を頂き、提案者として非常に嬉しく感じるとともに、氏の言葉から、改めて建築や空間、まちを考える指針の正しく大切なことを自ら認識しています。

「レンガの壁に寄り添うように設計するとか、屋根のかけ方とか、溜まり場の作り方とか。ひとつひとつはささやかなんだけど、群れになった時にブワッと情報量の持つ質感が浮かびあがるような空間の連続を感じとれる。環境に内在する深みのようなものが、共有の中庭としての空間にちゃんと取り込んでいるんだって、図面の中を歩くとわかるし、愛情を感じる。愛情なんて言っちゃうと身も蓋もないけれど、結局、そういったひとつひとつの想いみたいな小さいものの集合で全体像の脈絡ができてあがるというのは、これからの時代大切なことだと思う。新たな指針になりうる。それは、あなたが提案する118の規範にも現れていて。初めはある種の方法論のように捉えていたのだけど、そこから少し時間をおいて、全体を俯瞰して見た時に「いいなあ」と思ういろんな場所に、合いづちを打っていくような感覚がありました。その場所のコンテキストや環境の声を聞いて、生活のリアリティと結びつけながら考えていく必要性を感じました。」

（文責 准教授 篠崎健一）

第3回かすかべビジネスプランコンテスト受賞

ビジネスアイデアのテーマ「チルサポー青少年のスポーツ活動を食事のアプリでサポートー」で第3回かすかべビジネスプランコンテスト、ビジネスアイデア部門 グッド・アイデア賞を4年、小野翼さん、鈴木玲佳さん、友松聡太さん、山口大貴さんの4名が受賞しました。



表彰式の様子

左から友松さん、春日部市長、小野さん、鈴木さん

このビジネスプランはスポーツをする青少年の保護者に対して、食事・栄養面で支援すること、保護者間での情報共有の場を提供するアプリの開発について企画したものです。

国内外の学会で学生が活躍！

2019年7月8～11日にイギリス・リバプール大学において開催されました、The 10th International Conference on Systematic Innovation (ICSI)におけるPaper CompetitionのOther new tools, theories, and applications related to systematic innovation or CAI部門において、4年生の大原滯奈さんがタイトル：Analyzing Environmental Continuous Improvement (e-CI) in Japanese Manufacturing Industry by

Data Envelopment Analysis を発表し第3位に選ばれました。

2019年10月19～20日に開催された、経営情報学会2019年度秋季全国研究発表大会にて、4年生の四海 滯さんが「PBLにおける学習者の同質性と多様性が活発な発言に与える影響 社会人によるサプライチェーンゲームを用いた実証研究」で、4年生の関傑熙（ミン ゴルヒ）さんが「自動車関連産業の海外拠点の自律性と文化的距離 ネットワーク分析とホフステッド指数を用いた実証研究」で学生優秀発表賞を受賞しました。



学会発表の様子
左から四海さん、関さん、大原さん

国際会議で発表

国際会議 25th IEEE International Symposium on On-Line Testing and Robust System Design (ギリシャ) で、博士前期課程 2 年の石山悠太さん(細川研)が "A Design for Testability Method for k-Cycle Capture Test Generation"、博士前期課程 2 年の竹内勇希さん(細川研)が "A Controller Augmentation Method to Improve Transition Fault Coverage for RTL Data-Paths" を発表しました。



国際会議 JSST2019 (宮崎市) で、博士前期課程 1 年の花岡佑哉さん(伊東研)が "Shape Modelling of Plateau Borders of Metal Foam by Implicit Surface"、学部 4 年の八木友也さん(伊東研)が "Implicit Function Generated by Piecewise Polynomial and Radial Basis Function" を発表しました。



同窓会開催

9 月に日本大学校門会館にて校友会数理情報部会懇親会が開催されました。数理情報工学科の前身である統計学科と数理工学科、数理情報工学科の卒業生、在校生、退職・現任教員あわせて 84 名が参加しました。

会の途中で出題されたクイズに対して、ユーモアを交えながらも真剣に答えていた卒業生の姿が印象的でした。三本締めで会が終わるまで、旧友や恩師と思い出話に花を咲かせ、楽しい時間を過ごしました。



商学部芝村ゼミと合同ゼミを開催しました

創生デザイン学科の森宮研究室 3 年生 10 名と商学部の芝村ゼミ 2 年生 7 名、3 年生 7 名、4 年生 5 名が参加し学部を超えた初めての合同ゼミナールが、12 月 16 日に商学部で開催されました。両ゼミとも「問題解決」が共通のテーマであり、芝村ゼミの人口分布統計から社会課題を見つけ仮説提案するプレゼンに対して、森宮研究室からはプロダクトデザインの商品提案や空間デザインの演習課題作品等を紹介しました。懇親会では、学生達同士でお互いの成果発表に対して熱く語りあったのが印象的でした。

来年度には、芝村ゼミの行うデータ分析をベースに、問題解決のための仮説提案を森宮研究室のデザイン力と掛け合わせ、より魅力的な提案につなげていきたいと考えています。



キャンパスガイド表紙デザインコンペで最優秀賞を受賞

令和元年 11 月 3 日に、生産工学部津田沼校舎 39 号館 1 階ギャラリーにて 2020 年度キャンパスガイド表紙デザインコンペの作品審査が行われました。

生産工学部の在校生が応募した多数の作品の中から、創生デザイン学科内田研究室所属の 3 年生の 3 名、関拓哉さんの作品「明るいキャンパスライフ」が最優秀賞を、原清胤さんの作品「自由の桜」が優秀賞を、吉澤伊織さんの作品「十人十色」が佳作を受賞致しました。写真は、関さん(本人)による受賞作品前での記念写真です。

最優秀作品は 2020 年度キャンパスガイドの表紙に採用され、大学生活への夢と希望に満ち溢れた新入生らに配付されます。このため、関さんは印刷に向けて作品の仕上げ作業に力を注いでいます。最後に、同学科所属学生の他 6 名も各賞を受賞しましたことをご報告致します。



環境安全工学科ドローン部が活躍

学外の環境安全に関わるイベントとして 10 月 20 日に幕張メッセ国際会議場で開催された「エコメッセ 2019 in ちば」に出展しました。ドローンを利用した環境計測と、「にがり」を使って製作した蛍光体について説明し、盛況でした。

学内行事では 11 月 3、4 日に開催された桜泉祭のお神輿コンテストでは見事優勝しました。これで 4 連覇となりました。



お神輿メンバー

国家資格の取得として、『2 級土木施工管理技術検定の学科試験に、保坂研究室の井上君、小島君、佐藤君、森川君、野中研究室の岡本君、大野君、小野塚君、藤倉君、脇君、2 級建築施工管理技術検定の学科試験に岩下研究室の山口君が合格しました。』

教員の研究活動として、今村宰准教授が自動車技術会の 2018 年度技術部門貢献賞を受賞しました。令和 2 年 1 月に保坂成司教授が監修した「1 級土木施工管理技士 過去問コンプリート 2020 年版」

が誠文堂新光社より発行されました。

学科独自のプロジェクトとして数年前からドローンプロジェクトが始動しています。近年話題になっているドローンは、生産技術においてもその有効性が認められ実務にも取り入れられています。このような社会背景の中、環境安全工学科でもドローンを使った授業や実験が行われ、また学生が活動する「ドローン部」が発足されました。ドローン部は学科で認定し、安全教育、法律、操縦の練習などを学生主体となって計画し、実行しています。オープンキャンパスなどのイベントがあるときには、学生自ら企画し来場者に説明するなどの活動も行っており好評です。学科 WEB サイトにドローン部のページもございしますので、是非ご覧になってください。



エコメッセに参加したブース

SDGs を取り入れた初年次教育科目の試み

令和 3 年度に予定されているカリキュラム改訂では、本学が目指す「ものづくり」の全体を俯瞰することができる「経営がわかる技術者」の育成に向けた初年次教育科目を開講します。特に、国連で採択され、日本の社会にも大きな影響を与えている「SDGs (持続可能な開発目標)」を取り入れ、俯瞰的な視点や経営的な視点を体得してもらうのが科目の特徴です。

本年度は、この科目の試行として、コンセンサスゲームなどによるチームビルディング、ペーパータワー for ビジネスなどによる経営シミュレーションに加え、SDGs を基にした俯瞰的な視点からの課題発見と課題解決のグループワークによる講義を実施しました。この科目の根底となる SDGs については、一般社団法人イマコラボが開発したカード型シミュレーション「2030SDGs」を導入し、受講学生は楽しく、そして深く SDGs の必要性和可能性を学び、さらにマネジメント力の重要性を感じました。



本年度もイルミネーション点灯式を行いました

日没時間の早まる冬、実効キャンパスに通う学生に明るさや温かみを提供することを目的とし、教養・基礎科学系実効イベント WG では本年度も校舎内のイルミネーションの設置を行いました(設置期間: 11/6-1/31)。

また、イルミネーション点灯式が 12 月 17 日に実施されました。本点灯式は例年、実効イベント WG を中心とする関係教職員の協力のもと、桜泉祭実行委員会の 1 年生委員が主として企画・運営しています。

式は 5 時限終了後の 18:00 開始にもかかわらず、約 90 名の学生・教職員が参加し賑やかに行われました。軽音学部のクリスマスソング演奏や、サンタに扮した桜泉祭実行委員の司会によるビンゴ大会を通じて、学生どうしの交流・親睦が活発に図られていました。



生産工学部は、学生が中心のキャンパスをめざし、教職員はもちろんのこと多くの方たちがさまざまな形でバックアップしています。なかでも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのがこのコーナーです。今回は、ビル建築や河川改修などの工事現場に欠かせない山留（やまどめ＝土が崩れないように止める仮設備）の老舗企業、丸藤シートパイルの宮田幸松さんにご登場いただきました。



丸藤シートパイル株式会社 執行役員・東京支店長 宮田 幸松 さん

転勤の繰り返しは私の誇り。
そして、それが私の強み。

■勉強にも、遊びにも目一杯取り組んだ学生時代
生産工学部の数理工学科に入ったのは、高校時代から数学や物理が好きだったから。自分はこういう性格ですから、国語の文章問題などと違って、数学や物理は明快な答えが出るところが好きでした（笑）。
仲間や友人に恵まれた大学時代は、本当に楽しかったです。もっとも思い出深いのは、その仲間たちと軟式野球のクラブチームをつくって、社会人の大会に出たりしたことですね。その大会は学生チームじゃダメなので、みんな〇〇ガソリンスタンド勤務とかアルバイト先を適当に記入したりしてね（笑）。

また、アルバイト先でもいろんな経験をさせてもらいました。それが社会人になってからずいぶん役に立ったと思います。学生の皆さんは、勉強するのは当たり前ですが、遊びやアルバイトにも同じように一生懸命取り組んでいたideきたいですね。その一つ一つが社会勉強として後々の糧になります。
.....
■スタートは技術部。
大学で勉強したことを活かして
数理工学科で学んでいたのは、コンピューター理論など。40 年ほど前から、ちょうど出始めのころです。ま

だ紙に穴を開けてプログラムを組んでいた時代です。仲間の進路もコンピューター関係から学校先生が多く、私のように建築関係に



この形を見ればシートパイルがどんなものが、分かる。

PROFILE

宮田 幸松（みやた ゆきまつ） 1958 年生まれ。静岡県出身。1981 年 3 月日本大学生産工学部数理工学科（現数理工学科）卒業。同年 4 月丸藤シートパイル株式会社入社。スタートは技術部だが、翌年秋には営業部東京支店に異動。以降、関東支店、札幌支店、横浜支店、千葉支店と転勤を繰り返しながら営業畑を歩み、2012 年 4 月に東京支店営業第 3 部長に就任。2016 年 6 月からは執行役員東京支店長として現在にいたる。趣味はゴルフと釣り。とりわけ「釣りが楽しくて、食べておいしい」ヒラメ釣りの腕は名人級とか。



進んだのは珍しかったと思いますね。とはいえ、数理工学科には建築関連の科目も授業にありましたから、まったく畑違いということでもありません。私も本気でゼネコンに行きたいとは思っていたわけではありませんでしたが、建築にも興味はありました。そんなときまたまこの会社の募集を見ました。

その時点ではシートパイルとは何ぞや？という状況でしたが、会社は上場企業だし規模もますます、技術での募集だからこなら自分が勉強してきたことも生かせそう、給料も悪くないし（笑）……、ということで応募し、無事に入社できました。

入社時は技術部ですから、仕事は大学で勉強していたことの延長線上にありました。今は図面は全部 CAD、山留（やまどめ）などの計算はすべてコンピューターですが、当時は図面も計算もまだ全部手書きでした。学生時代は図面を引くのも好きでしたし、複雑な計算も嫌いじゃなかったの、どちらも真剣に取り組んでましたね。

.....
■厳しかった担当初仕事も、
今では懐かしい思い出

当時の仕事で印象に残るのは、この東京支店（かつての本社）の隣のビルです。1 年の研修を終えて、初めて担当としてやった仕事でした。なにしろまだ新人みたいなものですからね。ゼネコンさんの所長や主任には癖のある人もいます。「計算書を全部持ってこい。この計算をどうやって出したのか、全部ボードに書いて説明しろ」……等々。まるでいじめのようでした（笑）。今となっては笑って振り返ることができる懐かしい思い出ですが、当時は必死で、でもでかい声を出して、明るくやりましたね。

その声の大きさゆえかもしれませんが、当時の技術部長に「これからはセールス・エンジニアの時代だ。お前のような人間が営業に必要だ」と声をかけられました。まだ研修を終えて半年ぐらいでしたが、そこで技術から

営業へ。これは私にとって、まさに人生の転機だったかもしれませんね。

.....
■転勤の連続。

でも、そこから得た将来への大きな宝
技術から、今でいう東京支店に配属となり、それ以降はすーっと営業畑を歩んできました。東京支店からさらに関東支店へ転勤したのを皮切りに札幌、横浜、千葉に行き、東京本社に戻って部長を拝命し、3～4 年やって、2016 年から今の部署です。

わが社で私ほど転勤を繰り返した人間はいません。それが私の誇りですし、またそれが私の強みだと思っています。若い人にもよく言うんです。「若いうちは、とにかく会社内でもあちこちいろんなところに行ってこい」って。

会社にもいろんな性格の人間がいます。1 人の上司の下で育てしまうと、その上司のやり方が正解かどうか分からない。いろんな性格の、いろんな人間のやり方を見て、自分のなりのやり方を見つけることも大事なんです。

また、いろんな地方に行って、地方の先輩や部下と知り合えることも転勤のメリットです。自分が知らない部署へ行ったらときも、知っている人間がいれば必ず助けてくれます。いろんなところでいろんな人と知り合うのは、絶対に、後々の宝になってくるんです。

そういったことを思うと、自分の場合、転勤で得たものはとても大きかったと思います。

.....
■さらなる営業力アップと
新規事業の開拓に取り組んでいきたい

この業界では、うちが一番の老舗で、もうすぐ創業 100 年です。シートパイルや仮設材を扱った最初の会社です。とはいっても、他社との競合で単価が下がり、売り上げも落ちてきています。今、東京支店長として思うことは、何よりもまず、営業力をさらに上げなければならないということです。

うちは、残念ながら一番働き盛りの 30 代、40 代が少ない。今いる若手を一人前に育てなければなりません。そのために、風通しが良くて活気のある会社にしていきたいんです。

会議の場などでも、上司の前だとなかなか意見を言えないことが多い。しかしそれを言いやすくするのが上司の役目です。上司も部下もお互いに堂々と自分の意見を言い合える。そんな会社は発展します。

この業界は 100 年やっていて、変わっていいそうで変わっていないんです。シートパイル、H 鋼など山留材はすーっと鉄です。工法は振動や音が軽減されるように、といろいろ変わってきていますが、材料は変わっていない。なにか新しい素材のものが開発されてもおかしくない。そんなことも考えています。

また、山留材の素材に限らず、異業種分野も視野に入れた新規事業の立上げも試行錯誤中です。

こうしたことを、在任中に少しでも実現出来たら、と思っています。

.....
■大きな声であいさつ。
すべてはそこから始まる

若い人たちに、私の経験から得たアドバイスがあるとしたら、それは仕事でも遊びでもいいから、いろんな人と知り合って、いろんな人と会話をしなさい、ということ。

そのためには、まずは大きい声であいさつをするのが必要です。すべてはここから始まります。

そして、仕事を覚えるのが早いとか遅いとかは気にする必要はありません。向き不向きもあります。覚えが早い人もいれば遅い人もいます。同期より遅いとか早いとか、そんなのを一切気にする必要はありません。大器晩成型の人もいます。出世するしないは運とタイミングです。

まずは、大事な人付き合い。それをきちんとやって、あとは目の前の自分の仕事をちゃんとやることです。

取材後記

あっという間に人を惹きつける不思議な魅力をお持ちの宮田さんだが、そんな宮田さんでも若い部下と「ちょいと一杯」というわけには、なかなかいかない、とか。働き方改革うんぬんは抜きにしても、そんな「ご時世」のようです。それでも、まずは大きな声であいさつから——。そうおっしゃる宮田さんに、まったく同感いたしました。

日本大学による表彰学生			
学長賞			
電気電子工学科 4年生			
山口 遼大（ヤマグチ リョウタ）			
優等賞（43名）			

機 械 工 学 科	4 年 生	大 木 廣也	土 木 工 学 科	4 年 生	折 原 勝	応用分子化学科	4 年 生	KOK CHEE CHENG	数理情報工学科	4 年 生	好 川雄太郎
〃	4 年 生	諏訪 晃也	〃	4 年 生	泉 琢弥	〃	4 年 生	長谷川太郎	〃	4 年 生	松 田 竜馬
〃	4 年 生	村田 康輔	〃	4 年 生	高木 陽太	〃	4 年 生	玉澤 祥寛	環境安全工学科	4 年 生	浦 山 大輝
〃	4 年 生	福辺 淳志	〃	4 年 生	清水 雄登	〃	4 年 生	渡邊 玲	〃	4 年 生	柴 田 亮
〃	4 年 生	大野 雅樹	建 築 工 学 科	4 年 生	渡邊 響	マネジメント工学科	4 年 生	宮路 瑠唯	〃	4 年 生	内 田 光
電気電子工学科	4 年 生	松本 侑	〃	4 年 生	水野 有人	〃	4 年 生	MIN GEULHEE	〃	4 年 生	安 土 海渡
〃	4 年 生	菅ヶ谷 駿	〃	4 年 生	加藤 夏乃	〃	4 年 生	宇都野桃子	創生デザイン学科	4 年 生	伊 藤 愛理
〃	4 年 生	鈴木 直登	〃	4 年 生	吉塚 有梨	〃	4 年 生	中村 匡佑	〃	4 年 生	佐 藤 絵理
〃	4 年 生	篠崎 裁紀	〃	4 年 生	堀内 那央	〃	4 年 生	高橋 明里	〃	4 年 生	櫻井みなみ
〃	4 年 生	関口 晴貴	〃	4 年 生	石井 裕貴	数理情報工学科	4 年 生	堀 美遥	〃	4 年 生	小岩井佑香
土 木 工 学 科	4 年 生	佐々木翔梧	応用分子化学科	4 年 生	中山 柊人	〃	4 年 生	酒井 拓武			

生産工学部による表彰学生

学部長賞（5名）	
----------	--

学術・文化部門（3名）	
-------------	--

建築工学科 4年生 鈴木 俊策

2019 年度支部共通事業日本建築学会設計競技において優秀賞を受賞。テーマ「ダンチを再考する」、作品名「ソラニワ団地 ～住む下町、集う上町～」、応募者数：239 作品、受賞者数：全国入選 12 作品 / 最優秀賞 2 作品、優秀賞 4 作品、佳作 6 作品。

建築工学科 4 年生 高橋 朋

2019 年度支部共通事業日本建築学会設計競技において優秀賞を受賞。プレゼンターを務める。テーマ「ダンチを再考する」、作品名「ソラニワ団地 ～住む下町、集う上町～」、応募者数：239 作品、受賞者数：全国入選 12 作品 / 最優秀賞 2 作品、優秀賞 4 作品、佳作 6 作品。

建築工学科 4 年生 増野 亜美

2019 年度支部共通事業日本建築学会設計競技において優秀賞を受賞。テーマ「ダンチを再考する」、作品名「ソラニワ団地 ～住む下町、集う上町～」、応募者数：239 作品、受賞者数：全国入選 12 作品 / 最優秀賞 2 作品、優秀賞 4 作品、佳作 6 作品。

精励賞（43名）

学術・文化部門（38名）	
--------------	--

機械工学専攻 M2 川口 奨

2018 年 11 月に開催された強化プラスチック協会主催の 63th FRP CON-EX2018 で最優秀ポスター賞を受賞。（応募:27 件、受賞:3 件）。審査は 2 段階になっており、1 次審査では 3 名の審査員が講演要旨を審査し、6 テーマを選定。そして、6 名の審査員で 2 次審査を実施し、3 テーマに最優秀ポスター賞を授与。受賞した「GFRP 製クラッシュボックスの開発」は、2019 年 4 月の強化プラスチック誌にセレクトページとして掲載された。

機械工学専攻 M2 富田 晋

2018 年の 5 月に開催された日本設計工学会春季研究発表会で学生優秀発表賞、2018 年の 11 月に開催された強化プラスチック協会主催の 63th FRP CON-EX2018 で最優秀ポスター賞を受賞。日本設計工学会春季研究発表会の学生優秀発表賞は、優秀な発表をした学生に授与されるもので、2018 年度の春季大会では約 50 件の発表の中から 4 件に授与。受賞した「高強度ガラス繊維を用いた FW 製ハイブリッド FRP シャフトのねじり特性」は、2019 年 8 月の設計工学会誌の研究発表講演会優秀論文特集号に掲載された。63th FRP CON-EX2018 の最優秀ポスター賞は、応募した 27 件の中から 3 件に授与された。審査は 2 段階になっており、1 次審査では 3 名の審査員が講演要旨を審査し、6 テーマを選定。そして、6 名の審査員で 2 次審査を実施し、3 テーマに最優秀ポスター賞が授与された。受賞した「CF/GF ハイブリッド FRP シャフトの開発」は、2019 年 4 月の強化プラスチック誌にセレクトページとして掲載された。

機械工学専攻 M2 保坂 篤紀

2019 年度日本機械学会交通・物流部門主催「第 28 回 交通・物流部門大会 (TRANSLOG2019)」において、講演 No.1201「同時モジュール化を適用した多体ロボットの開発」として発表したところ、審査の結果、優秀講演賞として選考された。口頭発表件数 33 件から規定により、3 名が選出された。

体育部門（2名）	
----------	--

数理情報工学科 4 年生 齊藤 咲喜子

平成 29 年 5 月 21 日（日）に埼玉県立武道館で行われた平成 29 年度関東学生柔道優勝大会（主催：（社）全日本学生柔道連盟、関東学生柔道連盟）において、女子団体戦三人制の部にて 3 位に入賞するとともに、技術優秀選手に選出されました。またこの結果をもって、平成 29 年度全日本学生柔道優勝大会（インカレ）に出場。応募者数:関東学生柔道連盟に所属する 10 校が出場、受賞者数:優勝 1 校、準優勝 1 校、第 3 位 2 校、技術優秀選手 4 名（30 名中）。

数理情報工学科 4 年生 根本 泰輔

平成 28 年 6 月 26 日（日）に講道館で行われた第 57 回全日本理工科学生柔道優勝大会（主催:全日本理工科学生柔道連盟、後援:文部科学省、公益社団法人日本技術士会）において、男子式段の部で第 3 位に入賞。応募者数:全国理工科系大学から 13 名が出場、受賞者数：優勝 1 名、準優勝 1 名、第 3 位 2 名。

機械工学専攻 M2 弓野 智史

2019 年 5 月 18－19 日に開催された日本鋳造工学会の第 173 回全国講演大会での発表に対して、学生優秀講演賞を受賞した。講演題目は、「SBM 法の薄肉シェル成形における CT による砂充填の可視化」である。対象講演は、19 件あり 5 名の審査員が採点し、5 件が受賞した。学生優秀講演賞の受賞者は、学会誌「鋳造工学」の 2019 年第 91 巻第 7 号に掲載された。

機械工学科 4 年生 飯村 駿 ／ 機械工学科 4 年生 稲付 祐介

機械工学科 4 年生 稲葉 健斗 ／ 機械工学科 4 年生 津田 凌佑

機械工学科 4 年生 深澤 将人 ／ 機械工学科 4 年生 森岡 隼斗

応用分子化学科 4 年生 戸頂 京樹／マネジメント工学科 4 年生 熊倉 賢人

大会は、読売テレビ放送株式会社主催で行われる自作飛行機による飛行距離を競う大会である。『滑空機部門』および『人力プロペラ機ディスタンス部門』の 2 部門に分けて競技が行われる。津田沼航空研究会に所属する候補者は、1 年次に第 39 回大会（2016 年開催）、2 年次に第 40 回大会（2017 年開催）、3 年次に第 41 回大会（2018 年開催）、4 年次に第 42 回大会（2019 年開催）の『滑空機部門』に出場した。4 大会連続して出場しただけでなく、第 40 回大会では図面審査を通過した 24 チーム中 1 位、第 41 回大会では 20 チーム中 1 位の優秀な成績をおさめ、連続優勝により学部の名声を高めた。第 41 回大会の記録は、現在も大会の学生記録である。

機械工学科 4 年生 和賀 正太 ／ 創生デザイン学科 4 年生 小田 祐也

春日部市主催第 2 回かすかべビジネスプランコンテスト表彰式が 2018 年 2 月 7 日に開催され、Entre-to-Be プログラム第一期生によるチーム名 C-Booth（シーブース）がビジネスプラン名『「環境」を提供するカフェ< T-study Café>』で、ビジネスアイデア部門の最高賞である「グッド・アイディア賞」を受賞した。C-Booth のメンバーとして、ビジネスアイデア創出から事業計画書作成、市長に向けたプレゼンテ

ションまでに参加した。応募総数は非公開だが、ビジネスアイデア部門で書類審査を通過した 13 チームから受賞できたのは 3 チームである。

土木工学専攻 M2 岡崎 祐介

2019 年度廃棄物資源循環学会北海道支部ポスター発表・交流会において優秀ポスター賞を受賞した。発表件数：35 件、受賞者数：3 名。

土木工学専攻 M2 菅沼 丈夫

2018 年 7 月に開催された第 53 回地盤工学研究発表会において優秀論文発表者賞を受賞。講演数：1179 件（審査対象 35 歳以下、574 名中 149 名受賞）。

建築工学専攻 M2 池田 光

第 9 回 JIA テスクチャレンジ設計コンペにて「最優秀賞」受賞。主催は日本建築家協会北海道支部と株式会社テスクであり、テーマは「冬の光と過ごす空間」である。応募数 52 組、最優秀賞 1 組、優秀賞 2 組。

建築工学専攻 M2 外山 純輝

I「赤レンガ卒業設計展 2018」最優秀賞受賞。全国公募制卒業設計コンクール。横浜赤レンガ倉庫における作品公開展示と公開審査（三次最終審査は公開プレゼンテーション）により最優秀賞、以下各賞を決める。（注：運営は関東建築系学生）2018 年度審査員は、新居千秋（審査委員長）、藤村龍至、光井純、猪熊純、大西麻貴の各氏。応募作品総数：248 作品、最優秀賞受賞者数：1 名（本件）、2018 年 3 月Ⅱ『第 18 回埼玉県卒業設計コンクール』第 1 位最優秀作品賞および埼玉県知事賞受賞。1) 埼玉をテーマとした作品（最優秀作品は埼玉県知事賞）と 2) 自由作品による卒業設計コンクール。1、2) それぞれの最優秀作品決定後、総合第 1 位最優秀作品を決定する。巡回審査と最終審査公開プレゼンテーションによる。2018 年度審査員は、坂牛卓、他大学教授 20 名と埼玉建築設計管理委員会役員 15 名。応募作品総数:80 作品、最優秀賞（総合第 1 位）受賞者数:1 名、埼玉県知事賞受賞者:1 名（本件）、総合第 1 位最優秀作品受賞者数：1 名（本件）、2018 年 4 月。

建築工学専攻 M2 八橋 夏菜

歴史的空間再編コンペティション 2018 に 100SDK ～銭塔の在る懐かしい未来～を応募し、第 10 位を受賞。応募者数：201 作品、受賞者数：10 作品

2018 年度支部共通事業日本建築学会設計競技に応募し、関東支部入選した。応募者数：282 作品、受賞者数：70 作品。

建築工学科 4 年生 伊藤 拓海

①「第 18 回住宅課題賞 2018」（建築系大学住宅課題優秀作品展）入選、参加大学 39 大学 /51 学科 全 51 作品、優秀賞 3 点 審査員賞 5 点。②第 7 回大東建託賃貸住宅コンペ「身近な社会問題と向き合う、新たな賃貸住宅とは」一般部門 佳作、応募数 436 件、最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、佳作 4 点、学生特別賞、4 点。③第 8 回 E&G DESIGN 学生デザインズ賞。公共、都市空間のエクステリア部門 佳作、応募 54 作品、最優秀賞 1、優秀賞 4、佳作 4、特別賞 3。④ 2019 年度支部共通事業日本建築学会設計競技 課題「ダンチを再考する」タジマ奨励賞、応募数 239、最優秀賞 2 点、優秀賞 4 点、佳作 6 点、タジマ奨励賞 10 点。

建築工学科 4 年生 江邨 梨花

第 10 回 JIA・テクスチャレンジ設計コンペに応募し入賞。このコンペは、株式会社テクスと日本建築家協会（JIA）北海道支部の共同主催による環境型設計競技（コンペ）です。JIA 北海道支部の主催するコンペの中でも毎年時流の風を捉えた社会性の高いテーマ設定が特徴で「設計者の環境的感性を育てると共にその豊かな創造力で次世代における建築の価値を広く問う」ことが目的であり、今回のテーマは「自然と向き合う暮らしかた」でした。応募登録数 111、最終提出数 80 作品が全国から寄せられ、1 次審査の結果 17 作品の 1 つとして応募案が選ばれ、2 次審査に進み、公開審査としてプレゼンテーションを行い 11 作品に選ばれ入選。

建築工学科 4 年生 加藤 夏乃 ／ 建築工学科 4 年生 河本 耀杜

歴史的空間再編コンペティション 2019、全国に存在する歴史的空間の再編をテーマとする設計作品を対象とした全国コンペティション。一次審査（パネル）、二次審査（巡回）、ファイナルプレゼンテーション（10 作品）を経て 5 位を受賞。学生審査部門 1 位。2019 年度審査員は、塚本由晴（審査委員長）、平田晃久、松田達、中島直人、宮下智裕、樋渡彩の各氏。大学院（卒業一年目まで応募可能）、大学、短期大学、専門学校、高等専門学校、応募総数 214 作品、2019 年 11 月。

建築工学科 4 年生 植田 美鈴 ／ 建築工学科 4 年生 樋口 明浩

2019 年度支部共通事業日本建築学会設計競技において北陸支部入選。テーマ「ダンチを再考する」、作品名「私と故郷、緑つなぐ団地アーカイブ～空き家を解消し生まれ変わるまち～」、応募者数：239 作品、受賞者数：59 作品 / 全国入選 12 作品、奨励賞 8 作品。

建築工学科 4 年生 古田 宏大 ／ 建築工学科 4 年生 横山 喜久

2019 年度支部共通事業日本建築学会設計競技 課題「ダンチを再考する」タジマ奨励賞、応募数 239、最優秀賞 2 点、優秀賞 4 点、佳作 6 点、タジマ奨励賞 10 点。

建築工学科 4 年生 堀内 那央

① 2019 年度支部共通事業日本建築学会設計競技において北陸支部入選。テーマ「ダンチを再考する」、作品名「私と故郷、緑つなぐ団地アーカイブ～空き家を解消し生まれ変わるまち～」、応募者数：239 作品、受賞者数：59 作品 / 全国入選 12 作品、奨励賞 8 作品、②第 17 回「住宅課題賞 2017」（建築系大学住宅課題優秀作品展）入選および特別審査員賞（小西賞）受賞、作品名「間の家」、応募者数：39 大学 48 学科 全 48 作品、受賞者数：48 作品 / 優秀賞 3 作品、審査員賞 5 作品。

応用分子化学専攻 M2 木村 太一

2019 年 6 月 6 日に開催された日本海学会第 70 年会において、「脱 K 苦汁からの

炭酸塩の製造と高品位化－結晶品質を制御したドロマイトからの無機蛍光体の合成－」の題目で発表した結果、「学生優秀賞」を受賞。応募者 25 件、受賞者 2 件。

応用分子化学専攻 M2 久保 成永

2019 年 6 月 6 日に開催された日本海学会第 70 年会において、「反応晶析により得られる Mg(OH)₂ の結晶形状に関する検討」の題目で発表した結果、「学生優秀賞」を受賞した。応募者 25 件、受賞者 2 件。

応用分子化学専攻 M2 鷹尾 千尋

2019 年 9 月 23 日～27 日に開催された 18th Asian Pacific Confederation of Chemical Engineering (APCChE2019) において、「Development of Mixed Matrix Membrane Using Two-Dimensional Zeolitic Imidazolate Framework (ZIF-L)」の講演タイトルで発表した結果、「Encouragement Award of Separation Process Division（分離プロセス部会奨励賞）」を受賞。応募者 94 件、受賞者 10 件。

マネジメント工学科 4 年生 浦井 康輔

春日部市主催第 2 回かすかべビジネスプランコンテスト表彰式が 2018 年 2 月 7 日に開催され、Entre-to-Be プログラム第一期生によるチーム名 REST がビジネスプラン名「REST ～休める場所がすぐ見つかるアプリ～」で、ビジネスアイデア部門「特別賞」を受賞。REST のリーダーとして、ビジネスアイデア創出から事業計画書作成、市長に向けたプレゼンテーションまでを取りまとめた。応募総数は非公開だが、ビジネスアイデア部門で書類審査を通過した 13 チームから受賞できたのは 3 チームである。

マネジメント工学科 4 年生 小野 翼

春日部市主催第 3 回かすかべビジネスプランコンテスト表彰式が 2019 年 2 月 6 日に開催され、マネジメント工学科によるチーム名「スポーツ倶楽部」がビジネスプラン名「チルサボ－青少年のスポーツ活動を食事のアプリでサポートー」で、ビジネスアイデア部門最高賞にあたる「グッド・アイディア賞」を受賞した。チーム「スポーツ倶楽部」のリーダーとして、ビジネスアイデア創出から事業計画書作成、市長に向けたプレゼンテーションまでを取りまとめた。応募総数は非公開だが、ビジネスアイデア部門で書類審査を通過した 15 チームから受賞できたのは 2 チームである。

マネジメント工学科 4 年生 四海 滯

2019 年 10 月 19 日、経営情報学会 2019 年秋季全国研究発表大会ポスター発表「PBL における学習者の同質性と多様性が活発な発言に与える影響～社会人によるサブライチェーンゲームを用いた実証研究～」において学生優秀発表賞を学部 4 年生として受賞。ポスター発表件数：30 件、学生優秀発表件数：5 件。

マネジメント工学科 4 年生 田岡 駿佑

神戸学院大学にて 2019 年 11 月 9 日、10 日の 2 日間で開催された日本経営システム学会第 63 回全国大会研究発表大会において、学生発表論文「国内アパレル企業による取引ネットワークが企業パフォーマンスに与える影響」が学生研究発表優秀賞（学生部門最高賞）に選拔され承認された。学生発表論文全 70 編において 8 編が学生研究発表優秀賞（学生部門最高賞）で表彰。

マネジメント工学科 4 年生 林 直弘

神戸学院大学にて 2019 年 11 月 9 日、10 日の 2 日間で開催された日本経営システム学会第 63 回全国大会研究発表大会において、学生発表論文「20 代若者が住みたい街と賃貸に関する一考察－重回帰分析による賃貸の立地と設備からみた賃料要因推定－」が学生研究発表優秀賞（学生部門最高賞）に選拔され承認された。学生発表論文全 70 編において 8 編が学生研究発表優秀賞（学生部門最高賞）で表彰。

マネジメント工学科 4 年生 MIN GEULHEE

2019 年 10 月 19 日、経営情報学会 2019 年秋季全国研究発表大会ポスター発表「自動車関連産業の海外拠点の自律性と文化的距離～ネットワーク分析とホフステッド指数を用いた実証研究～」において学生優秀発表賞を学部 4 年生として受賞。ポスター発表件数：30 件、学生優秀発表件数：5 件。

数理情報工学専攻 M2 榎本 知幸

2018 年 8 月 27 日（月）に一般社団法人数理科学会主催の第 37 回数理科学講演会が開催され、人工知能に関するセッションにおいて「CNN におけるパラメータを持つ非線形活性化関数とその適用」と題して講演し、厳正なる審査を経て、優秀な講演を行った学生に対して贈られる学術奨励賞を受賞。応募者数：学生発表数 34 件、受賞者数：学術奨励賞 5 名。

体育部門（4名）

建築工学科 4 年生 長濱 世旅（1名）

第 64 回秋学千葉県学生剣道大会団体戦の部第 3 位入賞。

ソフトテニス部 (3名)

応用分子化学科 4 年生 渡辺 絢音 ／ マネジメント工学科 4 年生 爲國 智彦

数理情報工学科 4 年生 大平 皓士

平成 28 年度日本大学体育大会ソフトテニス競技会団体優勝。

功労部門（1名）

桜泉祭 (1名)

マネジメント工学科 4 年生 北野 綾人

平成 30 年度第 27 回桜泉祭実行委員会委員長。

※学部長賞・精励賞は令和 2 年 2 月末日現在のものです。

第12回 風力発電コンペ WINCOM2019

2019年11月3日(日)津田沼校舎37号館8階にて、第12回風力発電コンペWINCOM2019を開催致しました。発電量とエネルギー利用の2つの部門で競技を行い、発電量部門では風速2～6m/sでの発電量の平均値を、エネルギー利用部門ではそのコンセプトを競いました。今年度は、発電量部門中学・高校の部に29チーム(水平軸型風車19基と垂直軸型風車10基)、オープン参加の部に大学生・社会人が7チーム、そしてエネルギー利用部門で2チーム、合計38チームの応募がありました。競技会は今年度も大盛況のうちに無事終えることができました。本学部の学部生・院生も含めた参加者の皆様、どうもありがとうございました。また、今回受賞されたチームは以下の通りです(敬称略)。

中学・高校の部

- 最優秀賞 システム名称「Brand New Wind 2019」
足利大学附属高等学校
- 優秀賞 システム名称「the legendary windmill ver2019」
千葉県立下総高等学校
- 優秀賞 システム名称「発電扇艦ヤマト」
埼玉県立久喜工業高等学校
- アイデア賞 システム名称「真田丸改」
群馬県立利根実業高等学校
- アイデア賞 システム名称「タテコプター」
千葉県立館山総合高等学校
- デザイン賞 システム名称「山工100年プロジェクト」
山形県立山形工業高等学校



- 日本大学生産工学部校友会賞
システム名称「BOREAS」
日本大学生産工学部機械工学科

オープン参加

- 優秀賞 システム名称「YAMAKO-T-2019」
山形県立山形工業高等学校
- デザイン賞 システム名称「クコボン R01」
埼玉県立久喜工業高等学校
- 日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞
システム名称「orz」
蕨市立第一中学校

※風力発電コンペは、生産工学部校友会から支援金を受けております。

2020年度キャンパスガイド 表紙デザインコンペが開催されました。

2020年度版生産工学部キャンパスガイド表紙デザインの募集が、令和元年10月7日(月)から行われました。

応募作品は11月1日(金)から11月4日(月)まで39号館1階ギャラリーに展示され、11月3日(日)に公開審査が行われました。応募作品32作品の中から、最優秀賞に創生デザイン学科3年の関拓哉さん(共同制作者:創生デザイン学科3年小林恒平さん)の作品がキャンパスガイドの表紙として採用されました。また、下記の皆さんが各賞を受賞されました。

- | 受賞名 | 作品名 | 製作者 | 所属学科(専攻)・学年 |
|------|-------------|-------------|-------------|
| 最優秀賞 | 明るいキャンパスライフ | 関拓哉 | 創生デザイン学科3年 |
| | | (共同制作者)小林恒平 | 創生デザイン学科3年 |
| 優秀賞 | 自由の桜 | 原清胤 | 創生デザイン学科3年 |
| // | 夢の先まで、駆け抜けろ | 新田奈々美 | 創生デザイン学科2年 |
| 佳作 | 日大生が笑く日本の未来 | 佐藤杏恵 | 建築工学科4年 |
| // | 創る。 | 岩崎琢朗 | 建築工学科3年 |
| // | 未来の技術者になる君へ | 堀内那央 | 建築工学科4年 |
| // | 連なる「学び」 | 山田航士 | 建築工学科3年 |
| // | 十人十色 | 古澤伊織 | 創生デザイン学科3年 |



- | 受賞名 | 作品名 | 製作者 | 所属学科(専攻)・学年 |
|------|----------------------------|-------|-------------|
| 校友会賞 | 桜泉 | 小山佳織 | 建築工学専攻1年 |
| // | Le Ballon | 川邊碧 | 創生デザイン学科3年 |
| // | Travelers Guide ～進路を決める地図～ | | |
| | | 伊藤拓海 | 建築工学科4年 |
| // | 強く広がる10色 | 荒川内大心 | 建築工学専攻1年 |
| // | 形のあるアイデア | 槌田美鈴 | 建築工学科4年 |
| // | Creative Magic | 岡戸竜輝 | 創生デザイン学科2年 |
| // | 未来を導くプリズム | 高橋祐太 | 建築工学科4年 |
| // | 10色のブロッケン現象 | 松岡亮輔 | 建築工学科4年 |
| // | CITが創る2020 | 中里翔太 | 建築工学科4年 |
| // | 日本大学の歴史、TOKYO2020 | | |
| | | 高野真実 | 建築工学専攻2年 |
| // | えんてん | 白石せら | 建築工学科4年 |
| // | 結合し合うCIT | 古田宏大 | 建築工学科4年 |
| // | 交わる色 | 市原実果 | 建築工学科4年 |
| // | 樹木 | 鈴木紀乃 | 創生デザイン学科2年 |
| // | 開きたくなるキャンパスガイド | 川崎健太郎 | 創生デザイン学科2年 |

※キャンパスガイド表紙デザインコンペは、生産工学部校友会から支援金を受けております。

令和2年度行事予定

行事	2～4年次	1年次	大学院	備考
前期ガイダンス	4月1日(水)～7日(火) ※学科学科・学年によって、日程が異なります。	4月1日(水)～6日(月) ※津田沼・実習キャンパス。	4月1日(水)	
定期健康診断	4月7日(火)～10日(金)			
スポーツ大会	5月16日(土)			
女子中高生のためのキャンパスカフェ	6月21日(日)			
大学院一般入学試験(第1期)			7月4日(土)	
学内推薦入学試験			7月4日(土)	
学内特別推薦入学試験			7月4日(土)	
海外提携校推薦入学試験			7月4日(土)	
社会人特別選抜入学試験(第1期)			7月4日(土)	
オープンキャンパス	7月12日(日)、8月2日(日)、9月6日(日)			
夏季休業	7月24日(金)～9月7日(月)	7月24日(金)～9月6日(日)	7月24日(金)～9月9日(水)	
前期追試験	9月2日(水)、3日(木)			
編入学試験(推薦、短大)	9月4日(金)			
後期ガイダンス	9月8日(火)～10日(木) ※8日(火)は応用分子化学科2・3年生のみ	9月7日(月)～9日(水)	9月10日(木)	
父母面談会(秋季)	9月19日(土)			
大学院説明会(秋季)	9月19日(土)			
保護者向け就職説明会	9月19日(土)			
卒業式・修了式・学位記伝達式(9月)	9月24日(木)			9月24日(木)
編入学試験(一般、2年次・3年次)	10月3日(土)			
転部試験(2年次)	10月3日(土)			
外国人留学生選抜第1期	10月3日(土)			
帰国生選抜	10月3日(土)			
校友子女選抜	10月3日(土)			
大学院外国人留学生入学試験(第1期)			10月3日(土)	
創立記念日	10月4日(日)			
日本大学ワールドカフェ		10月11日(日)		※予備日10月18日(日)
総合型選抜第1期	10月24日(土)			
学部祭(桜泉祭)	10月31日(土)、11月1日(日)			※10月30日(金)準備日、11月2日(月)片付け日
風力発電コンペ(WINCOM2020)	11月1日(日)			
博士論文提出期日			11月20日(金)	
学校推薦型選抜	指定校制	11月21日(土)		
	提携校	11月21日(土)		
	日本大学競技部	11月21日(土)		
	日本大学競技部トップアスリート	11月21日(土)		
学校推薦型選抜	附属高等学校等	11月22日(日)		
	公募制	11月22日(日)		
	公募制(事業継承者等)	11月22日(日)		
	一般入学試験対策講座	11月29日(日)		
学術講演会	12月12日(土)			
冬季休業	12月23日(水)～1月12日(火)			
修士論文概要(初稿)提出期日			1月18日(月)	
一般選抜	C共通テスト利用方式	1月16日(土)、1月17日(日)		
	N全学統一方式第1期	2月1日(月)		
	A個別方式第1期	2月2日(火)		
	A個別方式第2期	2月9日(火)		
学修到達度確認試験(3年生)	2月4日(木)			
後期追試験	2月10日(水)、2月12日(金)			
修士論文提出期日			2月22日(月)	
転科試験(2年次)	2月22日(月)			
一般選抜CA共通テスト併用方式	2月26日(金)、2月27日(土)			
外国人留学生選抜第2期	3月1日(月)			
大学院外国人留学生入学試験(第2期)			3月1日(月)	
大学院一般入学試験(第2期)			3月1日(月)	
社会人特別選抜入学試験(第2期)			3月1日(月)	
卒業発表	3月2日(火)			
就職セミナー	3月3日(水)、4日(木)、5日(金)		3月4日(水)、5日(木)、6日(金)	
総合型選抜第2期	3月8日(月)			
修了発表			3月9日(火)	
卒業式・修了式・学位記伝達式	3月25日(木)			

個人情報の取扱い告知文

入学時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課